

学習状況アナライザー

答案から、次の練習を見つける

問題と自己解答の準備、分析結果の読み方、復習と保存までを案内します。



実際のアプリ画面。掲載例の教材・氏名・得点・日程は操作説明用です。

ユーザーズ・オペレーションマニュアル

画面を見ながら進める手順 / 保存と再開 / 困ったときの対処

CONTENTS

目的から探す

初めての方は最初から。操作中は必要な項目へ進んでください。

1回のテストを分析してみる	3	画面の流れをつかむ	4
Google認証とモデルを準備する	5	問題と答案を別々に追加する	6
分析対象のページを確定する	7	紙の問題・答案を取り込む	8
音声とPDFノートブックを使う	9	テスト情報と補足を入力する	10
分析を実行し、根拠を読む	11	レポートを今日の学習に変える	12
保存と共有の方法を選ぶ	13	分析履歴を開く・整理する	14
困ったときの確認順	15	毎日の起動・更新・終了	16
問題・自己解答の取り込み方法	17	AI処理の進み具合と再実行	18
リリースノート	19		

この本の使い方

目次の項目はクリックできます。画面例はPC表示が中心です。画面の幅や端末によってボタンの折り返し・位置が変わるため、説明にあるボタン名を目印にしてください。

番号付きの手順は上から順に操作します。青緑の図は操作の流れ、表は機能や保存方法の違い、黄色の欄は確認ポイントを示します。

01 / 学習状況アナライザー

1回のテストを分析してみる

問題と自分の答案を対応させ、次に練習することを見つけます。



1 問題と自己解答を用意する

同じテストの問題PDF・画像と、自分が解いた答案PDF・画像を用意します。採点済み・未採点のどちらも使えます。

2 それぞれの欄へ追加する

左の問題欄、右の自己解答欄にファイルを選択します。内容を取り違えないよう、名前とプレビューを見ます。

3 両方のページを確定する

分析したいページ番号を入力し、それぞれ「ページを確定」を押します。両方の確定状態を確認します。

4 テスト情報を入力して分析する

テスト名・科目・得点・満点などを入力します。Google認証とモデル設定を済ませ、「学習状況を分析する」を押します。

5 最優先の改善点を1つ選ぶ

結果の根拠を自分の答案と比べ、今日行う練習を決めます。必要ならPDFやJSONへ保存します。

このアプリで分かること

得点だけでなく、強化すべき単元、知識・読解・計算・記述などの能力要素、設問別の課題、次の学習行動を確認できます。分析結果は答案を見直すための補助として使います。

画面の流れをつかむ

上から、資料入力、テスト情報、分析結果へ進みます。



実画面：分析結果を表示した状態。上部メニューから履歴・保存を操作できます。

場所	操作
上部メニュー	分析履歴、JSON書出、JSON読込、ログ表示、Google設定、マニュアル、インストール。
問題欄	問題PDF・画像を追加。リスニングのMP3・MP4も扱えます。
自己解答欄	本人の答案PDF・画像を追加します。
テスト情報	種別・名称・実施日・学年・科目・得点・満点・補足。
学習分析レポート	全体所見、優先項目、能力要素、設問別チェック、学習計画を読む。

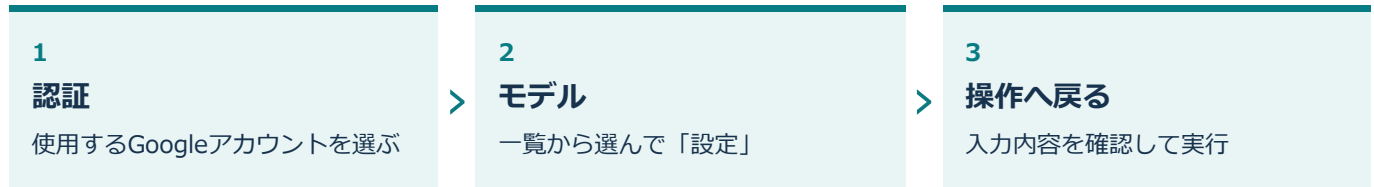
スクロールして探す

資料を追加した後は、下へスクロールしてテスト情報と分析ボタンを確認します。結果を読むときは、さらに下の「学習分析レポート」へ進みます。

03 / 学習状況アナライザー

Google認証とモデルを準備する

AIを使う前に、保存先のアカウントと使用モデルを確認します。

**1 右上のアカウント・モデル表示を押す**

「Google未認証」やアカウント名、Geminiモデル名があるボタンを開きます。

2 Google認証を完了する

設定・認証ボタンから認証画面を開きます。使用するアカウントと権限を確認して進みます。

3 モデルを選んで「設定」を押す

Geminiモデルの一覧から指定します。画面上部に選んだモデル名が表示されたことを確認します。

4 元の操作を実行する

入力画面へ戻り、生成・分析などのボタンを押します。入力が不足している場合は、その案内に従って補います。

こんなとき	確認すること
認証画面が開かない	ブラウザのポップアップ制限を確認し、許可後に認証ボタンを押し直します。
履歴が見つからない	保存時と同じGoogleアカウントか確認します。アカウントを変えると履歴の参照先も変わります。
モデルが選べない	通信状態を確認して設定を開き直します。一覧が取得できるまで実行を待ちます。

共有端末で使うとき

画面のアカウント名を毎回確認します。アカウント変更は設定内の切替操作を使い、履歴を開く前に切替先の名前を確認してください。

04 / 学習状況アナライザー

問題と答案を別々に追加する

本文・音声・貼り付け・画面取込も、問題と自己解答の両方で使えます。取り込み方法の一覧を参照してください。

同じテストの資料を、正しい欄へ入れます。

実画面：問題と自己解答を追加した状態。各欄で分析対象のページを確定します。

1 問題欄で「ファイルを選択」

設問、資料、図表、選択肢、配点を含むPDF・画像を選びます。点線枠へのドラッグ＆ドロップも使えます。

2 自己解答欄で「ファイルを選択」

同じ設問への自分の解答を入れます。途中式、理由、採点の書き込みも読み取れるものを選びます。

3 両方の対応を確かめる

問題の設問番号と答案の設問番号が対応しているか確認します。問題と答案でPDFのページ番号が同じである必要はありません。

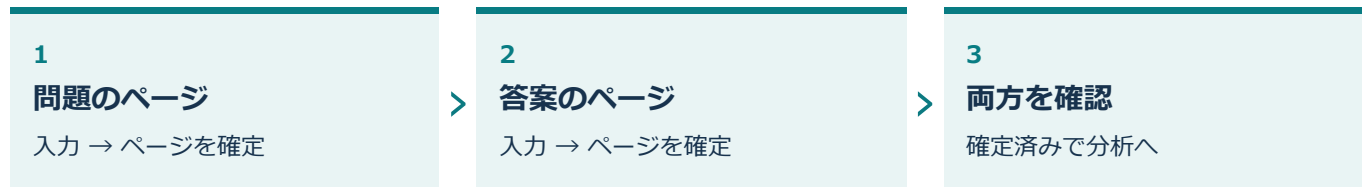
資料が足りないとき

共通の問題文や表紙の配点を別ページに置いている教材は、そのページも対象に含めます。判読しづらい箇所がある場合は、撮り直すか補足情報へ説明します。

05 / 学習状況アナライザー

分析対象のページを確定する

問題と自己解答の両方に、この操作が必要です。



入力	意味	注意
1	先頭の1ページ	単一画像は1ページを自動で準備します。
1,3-5	1・3・4・5ページ	カンマで離れたページ、ハイフンで連続範囲。
2-4	2～4ページ	表紙を含むPDFの順番で数えます。

1 必要なページを選ぶ

問題の説明が別ページに続く場合は、その範囲も含めます。

2 「ページを確定」を押す

番号を入力しただけでは未確定です。プレビューと状態表示を確認します。

3 反対側でも同じ操作をする

問題だけを確定しても、自己解答が未確定なら準備は終わりません。

4 変更後はもう一度確定する

ページ番号を書き換えた場合は再確定します。

送信量を減らしたい場合

教材全体ではなく、分析する設問と答案に必要なページへ絞ります。問題の前提や図表まで除外しないようにしてください。

06 / 学習状況アナライザー

紙の問題・答案を取り込む

撮影後に範囲と画質を確認すると、文字や図表を読み取りやすくなります。



使い方	選ぶ方法	確認する場所
複数枚の問題や答案をまとめる	PDF	四隅を紙の輪郭へ合わせ、追加撮影でページを増やす。
1問・図表などを切り出す	画像	点線枠の上下左右を動かし、必要な部分を1枚に収める。

1 「カメラで撮影」を押す

PDFまたは画像を選びます。カメラ利用の許可が求められたら許可します。端末の写真から選べる画面では、撮影済み画像も使えます。

2 問題全体が読めるように撮る

設問番号、条件、選択肢、図のラベルまで入れます。答案の場合は、途中式や記述も切らずに含めます。

3 範囲と画質を調整する

PDFは四隅、画像は長方形の点線枠を調整します。補正メニューを試した後、確認画面で薄い文字が消えていないか見ます。

4 取り込んだ内容を確認する

複数ページは順番も確認します。PDFの対象ページを指定する欄が出たら、ページ指定を確定してから次の操作へ進みます。

読めないときは、同じ写真で何度も生成しない

影や反射を避けて撮り直します。小さい文字は問題の近くから撮り、足りない条件は入力欄や補足情報へ書き加えてください。

07 / 学習状況アナライザー

音声とPDFノートブックを使う

リスニング問題や、既に関いている教材も取り込めます。

リスニング問題を分析する

1 問題欄の「リスニング音声」を選ぶ

MP3またはMP4を追加します。ファイルは100MB以下。MP4では映像ではなく音声トラックを使います。

2 設問と答案をそろえる

設問・選択肢・配点があるPDFや画像と、自己解答を用意します。音声だけでは分からない条件を補います。

3 音声名とページを確認する

正しい音声を読み込まれているか確認し、問題・答案のページ指定を確定してから分析します。

PDFノートブックから受け取る

1

問題の教材

AIツール → 問題

>

2

答案の教材

AIツール → 解答

>

3

アナライザー

両資料を確認して確定

PDFノートブックの「AIツール」から「学習アナライザー（問題）」または「学習アナライザー（解答）」を選びます。表示中のPDFが対応する入力欄へ渡されます。スナップショット後のAIツールを使うと、選択範囲の画像を渡せます。

続けて反対側を追加できます

問題を送った後に自己解答を送ると、先に取り込んだ資料を残したまま追加できます。戻ってきた画面では、両方のファイル名とページ指定を必ず確認します。

08 / 学習状況アナライザー

テスト情報と補足を入力する

得点の尺度と、答案から読み取れない背景を伝えます。

項目	入力の目安
テスト種別	定期テスト、模試、共通テスト、過去問など、実施したものを選びます。
テスト名・実施日	後で履歴から見分けられる名前と日付にします。
学年・科目	学習範囲や評価の前提になります。複合分野は補足で伝えます。
得点・満点	同じテストの値を入力します。50点満点の35点と、100点満点の35点は意味が違います。
補足情報	採点基準、解答時間、未習範囲、時間不足、本人の手応えなどを入力します。

補足の書き方

例：「数学の定期テスト。60分、100点満点で58点。問4は時間不足で未解答。問2は立式までできたが計算ミス。記述は途中式も評価される。」

1 分かる事実を書く

得点、制限時間、採点基準など、確かめられる情報を優先します。

2 原因の候補は区別する

「時間が足りなかったと思う」など本人の感想は、断定せずに補足として書きます。

3 分析前に読み直す

入力した値が資料の採点結果と一致するか確認します。

未採点の答案の場合

未採点であることと、分かる採点基準を補足します。点数や判定に不明点があるときは、分析上の注意も合わせて読みます。

09 / 学習状況アナライザー

分析を実行し、根拠を読む

結果に書かれた課題を、自分の答案と照らし合わせます。



実画面：分析レポートの一部。値やコメントは説明用サンプルです。

1 「学習状況を分析する」を押す

両資料の確定、テスト情報、Google認証、モデル指定がそろっていることを確認します。

2 完了を待つ

ログには処理状況が表示されます。×で閉じても処理は続き、「ログ表示」で戻せます。

3 根拠と注意を先に確認する

強化項目の根拠が答案にあるか、読めなかった箇所や不明な採点条件がないかを確認します。

数値の見方

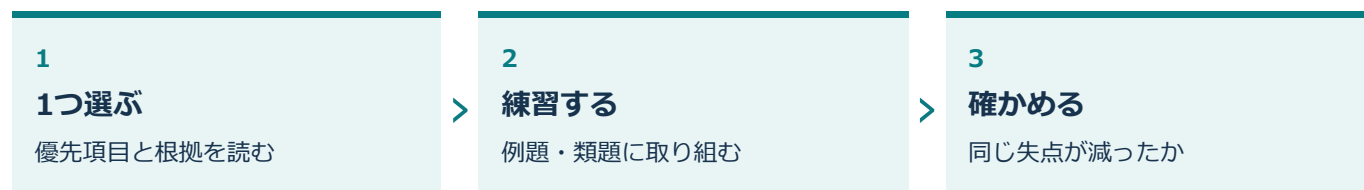
達成率は得点・満点の関係を確認します。能力要素の評価は、今回の答案をもとにした学習上の目安です。自分の能力全体を断定するものとして扱わず、次の練習を選ぶ材料にします。

10 / 学習状況アナライザー

レポートを今日の学習に変える

すべてを一度に直さず、根拠のある優先項目から取り組みます。

レポートの項目	読むときの問い
全体所見・達成状況	得点と答案の内容に、どのような傾向があるか。
強化すべき単元・要素	何を優先し、その根拠はどの設問にあるか。
能力要素	知識、読解、計算、論理、記述、時間配分のどこを練習するか。
設問別チェック	各設問でできたことと、次に直すことは何か。
学習計画	今日・今週・次回テスト前に何をするか。
分析上の注意	判読できない答案や、不確かな採点条件はないか。



具体的な行動への置き換え例

「立式を強化する」なら、教科書の該当例題を使い、未知数・条件・式の意味を声に出して説明します。翌日に解説を見ずに解き直し、できなかった設問を記録します。これは学習の進め方の一例です。

指摘が答案と合わないとき

該当設問の問題文・答案・配点を見直します。資料の不足や読取誤りを補ってから分析し直し、結果を無条件に採用しないようにします。

11 / 学習状況アナライザー

保存と共有の方法を選ぶ

PDF、Sheets、JSON、履歴では残せる内容が異なります。

方法	主な内容	注意
PDF保存・印刷	分析レポートを印刷用に保存。	印刷画面で「PDFに保存」を選び、ページを確認。
Google Sheets	サマリー、優先項目、設問別分析、学習計画。	Google認証が必要。出力先のアカウントを確認。
JSON書出	テスト情報と分析結果。	問題・自己解答PDFそのものは含みません。
分析履歴	問題データ、自己解答、分析結果。	Google Driveへ保存。保存時のアカウントで開く。

JSONで再表示する

1 「JSON書出」で保存する

現在の分析を端末のファイルに残します。元の問題・答案ファイルも別途保管してください。

2 「JSON読込」で開く

このアプリのJSONを選びます。認証なしでも結果を表示できます。現在の内容が必要なら、読み込み前に書き出します。

保存先とファイル名

履歴は「マイドライブ / 000Faith-SW-データベース / 【LMS】学習状況アナライザー-PWA」。端末へ出力するファイル名は「アナライザー_機能名_YYYYMMDDhhmm-詳細.拡張子」が目印です。

分析履歴を開く・整理する

以前の答案と分析を、同じアカウントから振り返ります。

1 保存時のアカウントで認証する

上部のアカウント名を見ます。違う場合は設定から切り替えます。

2 「分析履歴」を押す

過去の分析一覧を開き、対象の記録を選びます。必要に応じて更新ボタンで読み直します。

3 記録を再表示する

テスト情報と結果が目的のものか確認します。元の資料も確認して、前回の課題を振り返ります。

4 整理するときは先に保管する

履歴を削除する前に、必要な結果をPDFやJSONへ保存し、問題・答案も残します。削除対象の名前を確認してから進めます。

比較すること	見直し方
同じ単元の失点	前回と今回で、同じ原因が繰り返されているか確認。
取り組んだ練習	学習計画のうち実行できた項目を思い出し、次の補足情報へ反映。
テスト条件	満点・範囲・難度が違うテストは、点数だけで直接比較しない。

履歴一覧の件数について

操作説明用にJSONから開いた結果と、Google Driveへ保存された履歴は別です。画面に結果が表示されていても、履歴にあることは保存状態で確認してください。

13 / 学習状況アナライザー

困ったときの確認順

入力資料と確定状態を最初に確認すると、解決しやすくなります。

症状	対処
「ページ未確定」と出る	問題・自己解答の両方で「ページを確定」を押します。番号を変更した場合も再確定します。
PDFが開けない	別のPDFビューアーで開けるか確認します。パスワードを求められたら入力し、必要なら開ける形式で保存し直します。
カメラが使えない	カメラ権限を確認します。使えない場合は端末の写真を選ぶか、PDF・画像として取り込みます。
紙面が欠ける	PDFは四隅、画像は点線枠を調整し、設問番号や図の端まで含めます。
送信量が多い	対象設問に必要なページへ絞ります。
要確認が多い	問題・答案・採点・配点が読める資料をそろえ、補足へ採点条件を記入します。
分析が始まらない	両資料の確定、Google認証、モデル設定、通信を確認します。
Sheets出力が失敗する	Google認証と通信を確認します。必要な結果は先にPDFやJSONへ保存します。
JSONから答案が戻らない	JSONには問題・答案PDFは含まれません。元の資料を選び直すか、Driveの履歴を利用します。

エラーを伝えるとき

どちらの欄へ何を入れたか、ページ指定、テスト名、押したボタン、ログのエラー文を控えます。

14 / 学習状況アナライザー

毎日の起動・更新・終了

ブラウザから利用でき、対応する端末ではアプリとして追加できます。

端末	追加の操作
WindowsなどのPC	アプリ内の「インストール」、またはブラウザのインストール機能を使います。表示名や場所はブラウザによって異なります。
iPad・iPhone	Safariで開き、共有メニューから「ホーム画面に追加」を選びます。
その他の端末	ブラウザにアプリ追加・ホーム画面追加の項目がある場合に利用できます。

終了前にすること

1 処理中か確認する

AI処理やファイルの保存が進行中なら、完了または中断を確認します。ログ枠を閉じるだけでは処理の中止にならない場合があります。

2 残したい結果を保存する

共有・印刷用ならPDF、画面へ戻す用途なら各アプリのJSONや履歴など、目的に合う方法で保存します。

3 次回の入口をそろえる

端末内のデータを使うときは、同じ端末・同じブラウザ・同じアプリのURLから開きます。

古い画面が表示されるとき

作業を保存してからページを再読み込みします。インストール済みアプリは一度終了して開き直します。先にサイトデータを消すと、端末内の下書きや注釈を失う場合があるため、保存を済ませてください。

アプリの削除と保存データ

削除は端末のアプリ一覧やホーム画面から行います。Google Driveへ保存したデータと端末内データは保存場所が異なります。大切なファイルは削除前に別途保存してください。

問題・自己解答の取り込み方法

「問題」と「自己解答」それぞれの欄へ、本文・画像・PDF・MP3・MP4を追加できます。本文だけ、資料だけ、本文と資料の組み合わせでも分析できます。自己解答の音声は、本人が口頭で答えた内容として扱います。

入力する・貼り付ける

各欄の本文へ文字を入力します。「貼り付け」はクリップボードの文字や画像を取り込みます。許可できない場合は本文欄へ直接貼り付けてください。「画面取込」では共有する画面を選び、表示内容を画像として取り込みます。

画像・PDFと音声を選ぶ

「ファイルを選択」で画像・PDF、「音声を追加」でMP3・MP4を選びます。各入力枠へのドラッグ&ドロップでも取り込めます。画像・PDFは1件、音声は1件を併用でき、いずれも1ファイル100MBまでです。取り替えるときは新しい資料を選びます。読み込みに失敗した場合は元の入力が残ります。

PDFは対象ページを指定して「ページを確定」を押します。指定を変更したときは再確定してください。単一画像は自動で1ページを準備します。「画像・PDFを解除」と「音声を解除」はそれぞれの資料だけを外し、本文ともう一方の資料は残します。

撮影して取り込む

「カメラで撮影」で画像またはPDFを選び、範囲と画質を確認します。PDFは追加撮影で複数ページをまとめられます。取り込んだPDFは分析するページを確定してください。カメラや画面の選択を取り消しても、元の入力に残ります。

分析・中止・次回の再開

問題と自己解答の準備ができたら分析します。MP4は音声をMP3へ変換して送信し、元のファイルは変更しません。「分析を中止」で待機を終えられ、失敗・中止の場合も本文と資料、前回の結果を保持します。

同じ端末・ブラウザでは入力を保存して次回に復元します。Google Driveの分析履歴からは、保存した本文・音声・確定ページと結果を再表示できます。履歴の確定ページを変更したい場合は元のPDFを選び直してください。入力資料と分析結果は先にこの端末へ保存します。Driveの保存上限を超える場合は端末の履歴から再表示でき、「JSON書出」で資料を含めて保管できます。Driveへの保存は資料1件18MBまで、全体約24MBまでが目安で、ファイルの送信形式によって上限に達する場合があります。端末への保存もできない案内が出た場合は、画面を閉じる前にJSONを書き出してください。JSONの読み込みで本文・資料・分析結果を復元できます。資料を含まない旧形式のJSONは、現在の入力を変えずに結果を開きます。

AI処理の進み具合と再実行

大きいPDF・画像と音声

PDFは必要なページを選びます。大きい添付資料は自動で小分けに送信し、資料の内容を揃えてから解析します。転送中は処理ログで進み具合を確認できます。

音声として添付したMP4などは、端末内で音声を取り出してMP3を準備してから送信します。元のファイルは変更しません。準備中は画面を閉じずに待ってください。音声が含まれない場合や端末で読み取れない形式の場合は、案内を確認し、再生できるMP3などの音声ファイルを選び直してください。

混雑・通信切断・不完全な応答

一時的な混雑や通信の失敗、本文が欠けた応答は、待ち時間を置いて自動で再試行します。処理ログで状況を確認し、同じ実行ボタンを続けて押さずにお待ちください。再試行には回数と待機時間の上限があります。

処理が完了しなかったとき

自動で回復できない場合はエラーを表示し、応答待ちを終了します。入力した内容は残るので、エラーの原因を確認し、必要な条件を直して元の実行ボタンから再実行してください。中止ボタンのある機能は、待機中や再試行中も中止できます。

認証・利用上限の案内が出たとき

Google認証やGeminiモデルの設定を確認します。利用上限・権限不足・使用できないモデルの案内は、同じ要求を繰り返しても解決しません。画面の案内に従って設定を確認するか、利用可能になるまで待ってから再実行してください。

Googleドライブから開く・保存する

ファイルを開くときや書き出すときは、読み込み元・保存先で「端末」または「Googleドライブ」を選びます。Googleドライブを利用するときは、先にアプリのGoogle認証を完了してください。Drive画面に表示される認証アカウントを確認します。フォルダーは選択ウィンドウの横幅いっぱい、階層が分かるツリー形式で表示します。「選択して開く」「このフォルダーに新規保存」「キャンセル」などの操作ボタンはツリーの右下にあります。フォルダー行をクリックすると選択され、子フォルダーがある場合は展開・折りたたみが切り替わります。選択中のフォルダーは緑色で強調され、上部にその階層を表示します。読み込み時は選択したフォルダーを展開し、ツリー内に表示されるファイルへチェックを付けます。ファイル名でDrive全体を検索すると、ツリー内の「Drive全体の検索結果」から選べます。「フォルダーツリーを更新」で最新のフォルダー一覧を取得できます。複数選択に対応した操作では、複数のファイルにチェックを付けられます。

保存するときは保存先フォルダーとファイル名を指定し、「このフォルダーに新規保存」を押します。同名のファイルがあっても上書きせず、新しいファイルとして保存します。保存後はGoogleドライブで保存先フォルダーのファイルを確認できます。「キャンセル」で操作を中止できます。カメラ撮影とフォルダー一括取り込みは端末から行います。Driveの通常ファイルの読み込みと保存は16MBまでで、各操作が対応する形式だけを選択できます。音声を扱う操作では、MP4は16MBを超えていても選択でき、取り込み時に音声をMP3へ変換します。端末から選んだMP4も同様に変換します。音声がないMP4や対応していない音声形式は変換できません。変換の進捗を表示し、「キャンセル」で中止できます。大きなファイルは読み込みと変換に時間がかかります。Googleドキュメント・スプレッドシート等はPDFやTXT等へ書き出してから選択してください。認証エラーが出た場合は選択画面を閉じ、アプリでGoogle認証をやり直してください。ブラウザーの印刷画面で行うPDF保存は、印刷画面の保存先を使います。

つまずきの確認と後日の復習

上部の薄緑色の「つまずき・復習」を開き、「現在の教材を取り込む」で対象の1設問・文章を確認します。教科、単元、学年、自分の答案を必要に応じて直し、解答や翻訳を既に見た場合はチェックを付けます。不要な個人情報や範囲は取り除いてください。「この範囲でつまずきを確認」から、最大3つの短い質問に選択肢で答えます。「分からない・飛ばす」も選べます。

原因候補は「仮説」「確認課題で支持」「未特定」を区別します。違う点は訂正欄へ入力し、問診をやり直せます。文字や条件が読めない場合は資料を直して、新しい学習を開始してください。AIの判定に違いがあれば、試行の詳細から理由を入力して保留にできます。

元の問題、原因を確かめる1問、同じポイントの練習、考え方の説明、条件を変えた応用、後日の再確認を選べます。ヒントは着目箇所・使う知識・最初の一手の3段階です。答えは「解答・解説を見る」で表示します。ヒント・答え・原文を使った成功と、自力でできた成功は別に記録されます。「自力でできた」という自己申告だけでは習得確認になりません。

新しい確認問題で自力正答すると、翌日・3日後・7日後の復習候補が入ります。日付は変更できます。「履歴・今日の再確認」から保存済みの学習を再開します。途中の選択や答案は端末に保存され、Googleアカウントごとに区別されます。生成にはGoogle認証と通信が必要です。中断時は同じ操作を再実行でき、別の操作が先に進んだ場合は「サーバーの進行を再開」を押します。

「Driveへ保存」で学習記録を保存できます。「学習支援JSON保存」で書き出し、他の対応アプリで「学習支援JSON読込」を押すと、学習者・内容・版を確認してから取り込めます。同じ版・古い版は重複登録しません。別アプリから取り込んだ原因は計画に利用でき、AIによる練習を再開するときは原因を訂正して問診をやり直します。要約はテキスト・PDF・Google Docsへ出力でき、PDFはブラウザーの印刷画面で保存します。JSONには添付資料も含まれるため、共有先を確認してください。

分析結果の設問ごとの「つまずきを確認」から、その設問を対象にできます。問題資料と本人の答案は区別して引き継ぎます。得点や全体の傾向と、設問でできたこと・確認すべき原因は別に扱います。対象本文を1設問に絞って確認してください。

資料の準備中は完了まで待ってください。「応答中断」で準備を止めた場合も、対象の本文を確認して再開できます。問題と本人の答案に含まれる音声資料も引き継ぎます。MP4は音声を取り出してから学習に使います。

別の端末で履歴を開いたときなどに「サーバーの再開情報がありません」と表示された場合は、原因の訂正欄に「再開のため」と入力し、問診をやり直してください。これまでの答案・試行と復習予定を残して続けられます。

アプリの更新案内

ページ更新が必要な更新を検出した場合だけ、案内ダイアログを表示します。作業中の内容を保存してから、ブラウザーのページ更新（円の矢印マーク）を押してください。案内を閉じて自動では再読み込みしません。更新済みの場合や、更新を確認できない通信状態では表示しません。

PDFの紙面を見てページを選ぶ

PDFを取り込んだら、ページ指定欄の「ページを見て選ぶ」を押します。ページ番号と紙面を確認し、使うページにチェックを付けてください。「前のページ」「次のページ」や表示ページ番号で移動でき、表示倍率で拡大できます。「選択したページを入力」で元の欄へ反映し、元の画面の「確定」で使用ページを確定してください。「閉じる」で戻った場合、元の指定は変更されません。

PDFの保存先を選ぶ

PDF保存・PDF出力・印刷の操作では、アプリ内で「端末」または「Googleドライブ」を選びます。Googleドライブを選ぶと認証済みアカウントのフォルダツリーを表示するので、保存先とファイル名を指定して「このフォルダに新規保存」を押してください。同名のファイルがある場合も新しいファイルを作成します。取り消しても表示内容は残ります。端末を選んだ場合は、ブラウザーの印刷画面またはファイル保存画面で保存します。

Googleドライブへ出力するPDFは、Googleの文書形式に合わせて表・文章を整えるため、端末の印刷PDFとページ区切りや配置が異なる場合があります。保存できるファイルは16MBまでです。

PDF保存時の表示

PDF保存では、別のプレビュー用ウィンドウを開かず、元の画面で保存先選択を表示します。「端末」または「Googleドライブ」を選んでください。端末を選ぶとブラウザーの印刷・保存画面に進みます。キャンセルしても元の内容は残ります。

つまずき・復習ウィンドウの操作

「つまずき・復習」は独立したウィンドウで開きます。最上部のタイトルバーをつかむと、元のブラウザーの外へも移動できます。外枠の四辺・四隅で拡大・縮小できます。画面内の見出しや余白では移動しません。「閉じる」またはウィンドウの閉じるボタンで閉じ、同じボタンから再開できます。元のアプリを閉じると、このウィンドウも閉じます。開けない場合はブラウザーでこのアプリのポップアップを許可してください。

Gemini応答の中断

Geminiの応答中は、応答ログまたは処理中のウィンドウの中断ボタンで停止できます。入力と添付資料は保持され、同じ操作で再実行できます。つまずき・復習では「Gemini応答ログ」を開いて中断できます。

リリースノート

アプリの修正・追加内容を新しい順に掲載します。マニュアル自体の更新内容ではなく、過去の履歴も継続して掲載します。

公開日	アプリの修正・追加内容
2026年10月10日	Gemini応答を、応答ログと処理中のウィンドウから中断できるようにしました。中断後も入力と添付資料を保持します。
2026年10月10日	つまずき・復習を独立ウィンドウに変更し、ブラウザーの外への移動と標準の外枠による拡大・縮小に対応しました。閉じて開き直しても入力・問診・学習内容を保持します。
2026年10月10日	PDF保存の際に別のプレビュー用ウィンドウを表示せず、元の画面で保存先選択を行うようにしました。
2026年10月10日	PDF保存・出力の保存先でGoogleドライブを選び、フォルダーとファイル名を指定してPDFを保存できるようにしました。端末への印刷・保存も選択できます。
2026年10月10日	PDFのページ指定欄に、ページ番号と紙面を確認しながら使用ページを選べるビューワーを追加しました。前後の移動・ページへのジャンプ・拡大表示・複数ページ選択を利用できます。
2026年10月10日	アプリの更新内容を判定し、ページ更新が必要な場合だけ、保存してからブラウザーの円の矢印マークを押す案内を表示します。
2026年10月10日	- Googleドライブのフォルダーツリーを選択ウィンドウの横幅いっぱいに表示し、開く・保存・キャンセルのボタンをツリー右下に配置しました。 - ファイル選択時は、選択したフォルダー内の対応ファイルをツリー内に表示し、チェックを付けて開けます。 - 音声入力で、サイズ上限を超えるMP4も選択し、取り込み時にMP3へ変換できるようにしました。
2026年10月09日	追加した学習支援ボタンの文字を濃く太くし、背景との見分けやすさを改善しました。マウスを重ねたときや操作できない状態でも文字を読み取れます。
2026年10月09日	Googleドライブのフォルダー選択を、階層を展開・折りたたみできるツリー形式に変更しました。選択したフォルダーを強調表示し、読み込み元・保存先を確認できます。

公開日	アプリの修正・追加内容
2026年10月09日	保存した学習履歴にサーバー側の再開情報がない場合も、過去の試行を保持して問診から続けられるようにしました。
2026年10月09日	学習支援への問題・答案の音声資料の引き継ぎと、資料準備中の中断を改善しました。
2026年10月09日	- つまずきの問診、3段階ヒント、原因別の確認問題、自己説明・応用、日を空けた再確認を追加しました。 - ヒントや解答の利用と自力成功を分けて記録し、学習支援履歴の保存・JSON連携に対応しました。
2026年10月09日	Googleドライブで選択した保存先へファイルを新規保存する処理を改善しました。
2026年10月09日	ファイルの読み込み元と保存先で、端末に加えて認証したGoogleドライブを選ぶようにしました。
2026年10月05日	資料を含まない旧形式の結果JSONを引き続き読み込めるようにし、添付情報が不完全なJSONでは現在の入力と結果を保持するようにしました。
2026年10月05日	- 問題と自己解答の両方へ、本文入力・MP3／MP4音声・画像や文字の貼り付け・画面取込を追加しました。既存のPDFページ指定・カメラ撮影・100MBの資料入力も利用できます。 - 問題と自己解答の本文・画像・音声を区別して分析し、読み込み失敗や分析中止で元の入力を保持するようにしました。端末の入力復元と分析履歴からの本文・音声・確定ページの再表示に対応しました。 - 大容量資料でDriveへの保存上限を超える場合も、端末に入力と分析結果を保存して履歴から再表示し、資料を含むJSONを書き出せるようにしました。
2026年10月05日	- 問題・答案の大きい添付資料を小分けに送信し、音声用のMP4などをMP3へ準備して送信容量を抑えるようにしました。 - Geminiの一時的な混雑・通信切断・不完全な応答を自動で再試行し、回復できない場合も入力を保持して再実行できるようにしました。
2026年09月22日	分析に使用した問題データ・自己解答・分析結果をGoogle Driveへ保存し、分析履歴から更新・再表示・削除できるようにしました。
2026年09月14日	100MBまでの大きな問題・答案ファイルをGeminiへ送って分析できるようにしました。 - パスワード付きPDFを開くときに、パスワードを再入力できる案内を表示するようにしました。

公開日	アプリの修正・追加内容
2026年09月11日	• 分析結果をJSONで保存し、入力情報と分析結果を画面へ再読み込みできるようにしました。 • 初回起動時に、架空のテスト結果を使った分析サンプルを表示するようにしました。 • PDF保存時のファイル名に、機能名、日時、テスト名などの内容を含めるようにしました。